

2006年度 文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に選定

「ITによる経済学部教育の標準化と質保証」
**自学自習システム
経済学基礎知識
1000題**

TOPページへ

CONTENTS**特色GPとは?****学長・学部長あいさつ****経済学基礎知識1000題とは?**

- ▶ 選定理由・これまでの取組
- ▶ 教育効果を上げる工夫
- ▶ 自学自習システムの活用
- ▶ 自学自習システムの有効性と成果
- ▶ 学習の流れ・実際の画面を見てみよう!

特集1「進化する自学自習システム」**特集2「政策学基礎知識1000題」****特集3「ブレンテットラーニング」授業体験****教員VOICE**

- ▶ 教員から見た経済学基礎知識1000題

学生VOICE

- ▶ 学生の利用方法・利用成果

2007年度 活動内容**イベント情報****イベント開催報告****今後の展開****お問い合わせ****特色GPとは?****文部科学省の取組 ~Good Practice~**

文部科学省では、国公私立大学を通じて、学生教育の質の向上などの大学教育改革の取組を選定し、財政的なサポートや幅広い情報提供を行い、各大学などでの教育改革の取組を促進するため、「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」及び「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」などを実施しています。

GPとは?

大学・短期大学・高等専門学校等が実施する教育改革の取組の中から、優れたものを選び、支援・情報提供を行うことにより、他の大学等が選ばれた取組を参考にしながら、教育改革に取り組むことを促進し、大学教育改革をすすめています。この「優れた取組」を「Good Practice」と呼び、この言葉を略して、「GP」と呼んでいます。文部科学省では「Good Practice」をキーワードとして、教育方法や教育課程(カリキュラムなど)の工夫改善の取組や、社会からのニーズの強い課題に対応した取組など、大学における学生教育の質の向上を目指す特色のある優れた取組を選び、その取組をサポートしています。これらのサポートのためのプログラムとして、「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」と「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」などを実施しています。

特色GPとは?

「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」は、各大学、短期大学で実績をあげている教育方法や教育課程の工夫改善など学生教育の質の向上をめざす取組の中から、国公私を通して特色ある優れた取組を選び、サポートします。また、選ばれた取組を社会に広く情報提供し、高等教育全体の活性化を促しています。

[文部科学省:大学教育の充実—Good Practice—](#)

このページのトップへ

2006年度 文部科学省
特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)に選定

「ITによる経済学部教育の標準化と質保証」

いつでも、どこでも、つながる、学べる。



CONTENTS

[特色GPとは?](#)

[学長・学部長あいさつ](#)

[経済学基礎知識1000題とは?](#)

- ▷ 選定理由・これまでの取組
- ▷ 教育効果を上げる工夫
- ▷ 自学自習システムの活用
- ▷ 自学自習システムの有効性と成果
- ▷ 学習の流れ・実際の画面を見てみよう!

[特集1「進化する自学自習システム」](#)

[特集2「政策学基礎知識1000題」](#)

[特集3「ブレンデットラーニング」授業体験](#)

[教員VOICE](#)

- ▷ 教員から見た経済学基礎知識1000題

[学生VOICE](#)

- ▷ 学生の利用方法・利用成果

[2007年度 活動内容](#)

[イベント情報](#)

[イベント開催報告](#)

[今後の展開](#)

[お問い合わせ](#)

**「地域創成プログラム」
文部科学省 現代GPに選定**

自分発見型学生支援ネットの構築に向けて

文部科学省 学生支援GPに選定

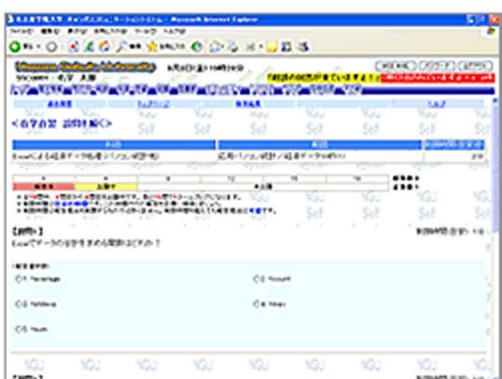
新着情報

- 2008.08.29 文部科学省GP採択シンポジウムを開催しました。
- 2008.07.26 特集3「ブレンデットラーニング」授業体験 第3回をアップしました。
- 2008.07.18 特集3「ブレンデットラーニング」授業体験 第2回をアップしました。
- 2008.07.11 新コンテンツ、特集3「ブレンデットラーニング」授業体験 第1回をアップしました。
- 2008.06.30 「2007年度 活動内容」に「自学自習システムの修正点」をアップしました。
- 2008.06.03 「2007年度 活動内容」をアップしました。
- 2008.06.03 文部科学省GP採択シンポジウムを開催します。

取組の概要

全教員の熱意と努力で生まれた、
名古屋学院大学独自のプログラムです。

名古屋学院大学経済学部では、近年の学生の学習能力（基礎学力、基礎的な知識水準、学習意欲）の多様化に対し、学部教育の質を保証するため、学内ネットワーク「CCS（キャンパスコミュニケーションシステム）」上にeラーニング手法を用いた「自学自習システム」を構築し、そこに専門科目を担当するすべての教員が作成に関わった経済学の基礎に関する設問群（コンテンツ）を組み込みました。これが名古屋学院大学独自の「経済学基礎知識1000題」であり、学生の学力と学習意欲の向上、学部教育の質向上に寄与するものとして、2006年度に文部科学省の「特色GP」として選定されました。



CONTENTS

[特色GPとは?](#)[学長・学部長あいさつ](#)[経済学基礎知識1000題とは?](#)

- [選定理由・これまでの取組](#)
- [教育効果を上げる工夫](#)
- [自学自習システムの活用](#)
- [自学自習システムの有効性と成果](#)
- [学習の流れ・実際の画面を見てみよう!](#)

[特集1「進化する自学自習システム」](#)[特集2「政策学基礎知識1000題」](#)[特集3「ブレンディング」授業体験](#)

教員VOICE

[教員から見た経済学基礎知識1000題](#)

学生VOICE

[学生の利用方法・利用成果](#)

2007年度 活動内容

イベント情報

イベント開催報告

今後の展開

お問い合わせ

経済学基礎知識1000題とは?



選定理由(文部科学省発表)

この取組は、学生の基礎学力・学習意欲の低下に対処するため、インターネットを活用した自学自習システムを構築し、独自のコンテンツを開発することで成果を上げている取組です。全学生にパソコンを無料配布するとともに、eラーニング環境を整備してインターネットを活用した自学自習システムを構築し、コンテンツとして学部全教員参加による「経済学基礎知識1000題」が作成されています。ネットワークからアクセスすると、択一式の設問が表示され、解答すると正解とともに解説が現れるシステムとなっています。教育効果を上げるための工夫として、(1)授業内容の標準化、(2)カリキュラムとの連動、(3)試験との連動による学習インセンティブ、(4)問題群の学内公開、(5)学生利用データの教育活用などが図られており、学生の学力の向上とともに教員の授業改善とも結びついています。このような取組は、今日の多くの大学にとって大いに参考となるものと評価することができます。

これまでの取組

- | | |
|---------|---|
| 1994年度～ | 1年次必修科目の「マクロ経済学」「ミクロ経済学」の教育範囲・シラバス・試験形式・成績評価基準など教育内容を統一して標準化を促進 |
| 1996年度 | 全学生にノートパソコンを配付 |
| 2001年度～ | 学生による教員の「授業評価アンケート」を実施 |
| 2002年度～ | 学内ネットワーク上にOCS(キャンパスコミュニケーションシステム)を構築。前年度より開発を始めていた「自学自習システム」をリンク(OCS稼動当初は各科目の教員個々人が設問を作成) |
| 2004年度～ | 自学自習システムの有効性が認知され、経済学部の全専任教員が分担して「経済学基礎知識1000題」のコンテンツを作成、運用を開始 |
| 2006年度 | 文部科学省の「特色GP」に選定 |

[このページのトップへ](#)

CONTENTS

特色GPとは?
学長・学部長あいさつ
経済学基礎知識1000題とは?
選定理由・これまでの取組 教育効果を上げる工夫 自学自習システムの活用 自学自習システムの有効性と成果 学習の流れ・実際の画面を見てみよう!
特集1「進化する自学自習システム」
特集2「政策学基礎知識1000題」
特集3「ブレンテッターニング」授業体験
教員VOICE
教員から見た経済学基礎知識1000題
学生VOICE
学生の利用方法・利用成果
2007年度 活動内容
イベント情報
イベント開催報告
今後の展開
お問い合わせ

経済学基礎知識1000題とは?

教育効果を上げる工夫

1.授業内容の範囲設定と標準化

経済学基礎知識1000題のコンテンツの作成過程において、各教員は教えるべき内容の範囲や授業内で強調すべき点を確認します。これらのコンテンツは全教員が閲覧するため、教員間で内容の範囲設定および調整が容易に行え、その結果、学部教育の標準化が実現しています。同時に学生にとっては、より高度な経済専門科目の学習段階へスムーズに移行できるようになっています。

2.カリキュラムとの連動

コンテンツは財政・金融・政策・国際・歴史など広く経済学に関連する領域に加え、基本的な政治経済分野の基礎知識、さらに実用英語の領域までカバーし、いずれも授業科目と対応させています。コンテンツを小分けにして、ネット上に公開するタイミングを授業の進度に合致させることにより、学生は授業単元に合わせた予習・復習に活用できるようになります。

カリキュラムと「経済学基礎知識1000題」との対応

	大分野	カリキュラム基本活用科目	分野／設問数
1	マクロ経済	マクロ経済入門、マクロ経済ほか	6分野/180問
2	ミクロ経済	ミクロ経済入門、ミクロ経済ほか	6分野/180問
3	財政	財政学入門、財政学ほか	3分野/60問
4	金融	金融論入門、金融論ほか	3分野/60問
5	歴史と経済史	経済史入門、経済史ほか	3分野/60問
6	グローバル経済	国際経済学入門、国際経済学ほか	3分野/60問
7	データの処理	統計学入門、統計学、OA実習ほか	3分野/140問
8	日本経済の仕組み	日本経済入門、日本経済論ほか	6分野/180問
9	法と政治制度	憲法、民法1、政治学、商法ほか	4分野/120問
10	ビジネス英語	TOEIC英語演習1・2ほか	3分野/60問

橙文字は必修科目、緑文字は学科基幹科目

3.学習インセンティブの付与

せっかくの自学自習システムも学生が利用しなくては意味がありません。利用を促す工夫として、学習時間や正答率などによる利用者のランキングをシステム上に表示し、学生はゲーム感覚を味わいながらコンテンツを取り組めるようにしています。また、定期試験の一部にもこれらのコンテンツが利用され、それが積極的な学習インセンティブにつながるという成果も得ています。

4.コンテンツの学内公開

ネット上に公開されたコンテンツは学内の共有財産として、経済学部生のみならず、学内の全学生・全教員が閲覧できるため、多目的利用につながっています。たとえば、より専門性の高い科目を担当する教員は、履修の前提となる知識として、学生にコンテンツの特定範囲を指定することで、学生の事前の知識水準を一定に保つという大きなメリットが生まれています。

5.対面授業の実施とコンテンツの改善

学生の学習履歴データ(学習頻度・正誤率・ランク等)は、教員にとって直接的な授業改善の基礎資料として、講義の内容や水準をリアルタイムに調整できます。また、正解を出せない学生を特定できるため、ネット上あるいは対面での個別指導にも活用されています。学生全体の正答率が極端に低い設問の場合、出題ミスや設問文のまづさはなかったかなど、教員側の反省材料として以降のコンテンツ作成に反映させています。

学生の人間的成长を促す工夫

毎日の学習の積み重ねから成果を実感する喜び

学生はランキングやスコアの上昇により、自らの努力が直接成果に結びつく達成感・満足感を体験しています。身近なクラスメートの「成績順位」をランキングで目にすることにより、よい意味での「競争心」「やる気」の芽生えも期待できます。コンテンツに対する質問や疑問をネットで教員に問い合わせ、教員もネットや面談で答えるなど、講義の場以外での接触機会も増加しています。

充実した学習をサポートする工夫

先輩の実体験から知る、学びの成果

2004年開設の基礎教育センターではティーチングアシスタントが、高校とは大きく異なる大学での学習方法のアドバイスや、基礎学力向上のフォローを行っています。2006年度中には、同センターに「社会経済」担当の大学院生メンターを配し、気軽に相談や質問ができる体制を整備する予定です。学部生にとり、年齢の近い大学院生メンターは、数年後の自分を連想させる、身近で具体的な目標像ともなります。

このページのトップへ

2006年度 文部科学省 特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)に選定
「ITによる経済学部教育の標準化と質保証」

自学自習システム
経済学基礎知識
1000題

[TOPページへ](#)

CONTENTS

特色GPとは?

学長・学部長あいさつ

経済学基礎知識1000題とは?

- ▶ 選定理由・これまでの取組
- ▶ 教育効果を上げる工夫
- ▶ 自学自習システムの活用
- ▶ 自学自習システムの有効性と成果
- ▶ 学習の流れ・実際の画面を見てみよう!

特集1「進化する自学自習システム」

特集2「政策学基礎知識1000題」

特集3「ブレンティックラーニング」授業体験

教員VOICE

- ▶ 教員から見た経済学基礎知識1000題

学生VOICE

- ▶ 学生の利用方法・利用成果

2007年度 活動内容

イベント情報

イベント開催報告

今後の展開

お問い合わせ

経済学基礎知識1000題とは?

自学自習システムの活用

CCSの活用で高まる教育の質

CCSの開発・管理を担う情報教育センターでは、CCS上にリンクした自学自習システムのさらなる活用をめざして、2002年の運用開始以来、『CCS活用事例集』の発刊、教員に対する機器利用支援、システムの利用と成果の公開などに注力。これにより、教員も学生もシステムの有効性を深く認識し、教える側、学び取る側両者の成長につながっています。

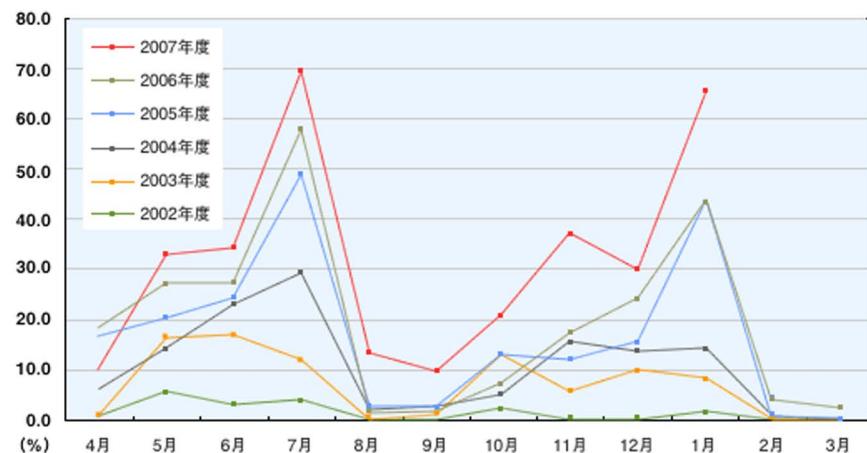
データで見る活用状況

自学自習システムの本格的運用開始2年目の2005年度には、春学期の実利用者数は月平均369人(経済学部1学年定員450人)、解かれた問題数は71,001題、学生1人当たり月に約200題の問題を解いたことになります。また、学期末試験が行われる7月と1月には利用者が急増し、学生が試験勉強に活用している証ともなっています。

■学生の利用実績(春学期月平均)



■経済学部生の月別の利用率の変化



他学部生からのアクセスもある自学自習システム

自学自習システムの公開性から、利用者は経済学部以外の学生にも及んでいます。「経済学基礎知識1000題」のコンテンツですが、経済学関連分野のみならず、政治経済分野、実用英語も出題されているので、利用者の約2%は他学部生となっています。

[このページのトップへ](#)

CONTENTS

特色GPとは?

学長・学部長あいさつ

経済学基礎知識1000題とは?

- 選定理由・これまでの取組
- 教育効果を上げる工夫
- 自学自習システムの活用
- 自学自習システムの有効性と成果
- 学習の流れ・実際の画面を見てみよう!

特集1「進化する自学自習システム」

特集2「政策学基礎知識1000題」

特集3「ブレンチテラーニング」授業体験

教員VOICE

- 教員から見た経済学基礎知識1000題

学生VOICE

- 学生の利用方法・利用成果

2007年度 活動内容

イベント情報

イベント開催報告

今後の展開

✉ お問い合わせ

経済学基礎知識1000題とは?



自学自習システムの成果と有効性

教育上の成果

- ✓ 学生の定期試験におけるスコア上昇
- ✓ 学生の情報機器利用機会の増大とスキル向上
- ✓ 教員および学生自身による理解度の把握
- ✓ 教員の対面指導機会の増加
- ✓ 授業内容の実践的工夫に寄与

教員の評価

[財政学担当教員]

基本的な知識事項を確認するにはきわめて有効。定期試験でも非常に重宝した。

[経済政策担当教員]

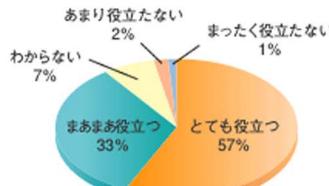
択一式問題の形式は公務員試験でも使われ、工夫次第で受験対策にも利用できる。

[金融論担当教員]

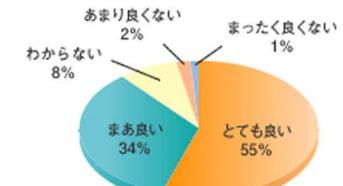
学生は他の教材より取り組みやすいようだ。試験対策を怠りがちな学生も利用するケースが多くなり、学習意欲の向上もみられる。

学生の評価

自学自習は学習の役に立ちましたか?



講義内容と自学自習の連動をどう思いますか?



コンテンツを数多く解いた学生ほど、本システムに高い評価を寄せています。

中長期的に期待できる効果

学生の苦手領域を知り、授業に反映

コンテンツの出題および利用結果から、各教員は「関連する教員の授業水準や重点領域がよく理解できた」「学生が苦手とする難しい問題領域は意識して丁寧に解説するようになった」「講義、授業内小テスト、コンテンツの三者を連動させて授業を進めている」と授業運営も変化させています。PDCAサイクルにより、今後はさらに教育の標準化と教育の質保証が担保されると確信しています。

PDCAサイクル～教育の維持と保証へ～



このページのトップへ

2006年度 文部科学省 特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)に選定
「ITによる経済学部教育の標準化と質保証」

自習システム
経済学基礎知識
1000題

TOPページへ

CONTENTS

特色GPとは?

学長・学部長あいさつ

経済学基礎知識1000題とは?

- ▶ 選定理由・これまでの取組
- ▶ 教育効果を上げる工夫
- ▶ 自学自習システムの活用
- ▶ 自学自習システムの有効性と成果
- ▶ 学習の流れ・実際の画面を見てみよう!

特集1「進化する自学自習システム」

特集2「政策学基礎知識1000題」

特集3「ブレンテトラーニング」授業体験

教員VOICE

教員から見た経済学基礎知識1000題

学生VOICE

- ▶ 学生の利用方法・利用成果

2007年度 活動内容

イベント情報

イベント開催報告

今後の展開

✉ お問い合わせ

経済学基礎知識1000題とは?

学習の流れ

1.CCSって何?

CCS(キャンパスコミュニケーションシステム)は名古屋学院大学のホームページを利用して、学生・教員・職員の三者をつなぐもので、あなたがの時間割である「今日の予定・明日の予定」、休講案内、学生各自に限定した「呼出情報」などが検索できますし、教員や職員への問合せや質問も書き込めるようになっています。上段見出しの右から2番目、「自学自習」をクリックして、「経済学基礎知識1000題」を含む自学自習ページへあります。



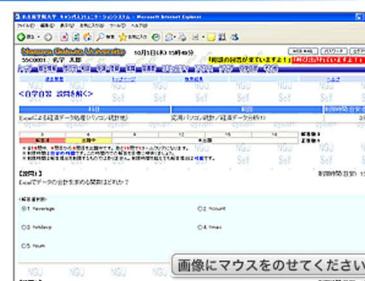
2.「経済学基礎知識1000題」へ

まずはどの学部のどんな教員の問題にチャレンジするかを決めます。すでに挑戦中であればその設問一覧が表示されます。その日の気分で、あるいは授業の予習・復習・定期試験等に向けた勉強に合わせて自由に選ぶことができます。



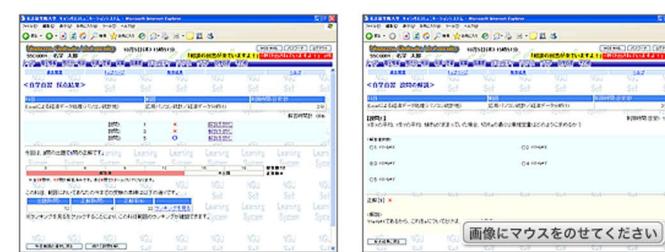
3.設問を解く

設問に対する解答は択一式、正解と判断した番号をクリックするだけ。設問ごとに目安となる制限時間も設定してあるため、科目によっては資格試験や公務員試験などに向けた学習も可能です。



4.採点結果

設問ごとに出題し、その採点結果をすぐに表示。これまで学習した解答時間計を表示し、該当科目および範囲の正解率の累積も表示。短時間での解答にチャレンジしている学生のために、あとでまとめて解説文を読めるように工夫されています。



5.ランキング

何問かにチャレンジしたら、「ランキングを見る」をクリックして、結果を確かめることができます。「正解率」でランキングを表示すると、より多くの出題にチャレンジし、正解を出した学生が上位にいることがわかります。「正解率」「解答時間」などによる並べ替えも可能で、あなたのさまざまなランキングを確認できるようになっています。



実際の画面を見てみよう!

名古屋学院大学「CCS体験版」Webサイトにて、「経済学基礎知識1000題」の画面を見るることができます。画面右上の「自学自習」からアクセスしよう！

名古屋学院大学 CCS体験版 Webサイト CCS Topページ

このページのトップへ

2006年度 文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に選定

「ITによる経済学部教育の標準化と質保証」

自学自習システム
経済学基礎知識
1000題

TOPページへ

CONTENTS

特色GPとは?

学長・学部長あいさつ

経済学基礎知識1000題とは?

- ▶ 選定理由・これまでの取組
- ▶ 教育効果を上げる工夫
- ▶ 自学自習システムの活用
- ▶ 自学自習システムの有効性と成果
- ▶ 学習の流れ・実際の画面を見てみよう!

特集1「進化する自学自習システム」

特集2「政策学基礎知識1000題」

特集3「ブレンテッターニング」授業体験

教員VOICE

- ▶ 教員から見た経済学基礎知識1000題

学生VOICE

- ▶ 学生の利用方法・利用成果

2007年度 活動内容

イベント情報

イベント開催報告

今後の展開

お問い合わせ

今後の展開

コンテンツの豊富化・高度化

学習分野によるコンテンツの質・量の偏りを無くすとともに、十分な量をもつ分野でも出題内容や方法を改善します。また、論理的思考を養うような設問形式の工夫も行います。質の高いコンテンツについては解説に動画クリップを組み入れるなど、学習者の理解度をより高める仕組みを用意します。

利用率とアクセシビリティの向上

利用率の向上をめざし、コンテンツのタイムリーな開放、Web上に掲載されるシラバスとの連携を強化します。また、経済基礎科目に加えより高度な専門科目に関するコンテンツの拡充も進めます。さらに、携帯電話による自学自習システムの機能をより充実する予定です。

フォローアップ体制の充実

教員によるネットワーク上の支援、対面指導の支援体制をより充実させるため、基礎教育センターに大学院生メンターを配置しました。学生が気軽に相談できる窓口として充実する予定。寄せられた疑問・質問はメンターを介してデータベース化し、コンテンツ改良に資する追加資料とします。

学部外への拡張

経済学部における取組を充実・発展させるとともに、今後、すべての学部で自学自習システムの活用を計画しています。また、入学前教育や高校への出前授業など高大連携への展開、エクステンション講座など社会人の生涯教育を視野に入れたシステム拡張を計画しています。

教育のPDCAサイクルの確立

コンテンツ作成と利用、学習履歴データを通じて、対面授業やコンテンツの改良が進められるなど、本取組は、学生の学習力の向上に寄与すると同時に、教員のFD活動にも資するものです。このPDCAサイクルを制度的に確立するため、ユーザ(教員・学生)にアンケートを実施し、問題点や課題を洗い出し、改善につなげていきます。